

文学部通信教育課程

I 2012 年度認証評価における指摘事項（努力課題）

該当なし

II 2016 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2016 年度大学評価結果総評】

文学部通信教育課程における 2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況として、通信教育課程全体としての学生の減少傾向に対して、それぞれの学科の特色を生かした通信教育のあり方と、外部発信の方法を検討していることは評価できる。外部発信の方法については、評価されている日本文学科の対応を他の学科も試みることを期待したい。

さらに、大学側からの発信ばかりではなく、学生からの意見を幅広く集めることも、減少傾向を食い止める一助になるものと思われる。通信教育という性質上、難しいところもあると思うが、学生、特に新入生へのアンケートなどを何回か行い、学生の考えている事を今以上に把握することも必要ではないかと思われる。

今後とも、カリキュラムや科目名なども検討し、学生のニーズに合わせた改革を行い、通信教育課程として、いろいろな方策についてより一層の検討が期待される。

【2016 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）

2016 年度大学評価委員会の評価結果は、おおむね良好であった。文学部通信教育課程の質を今後も保つのみならず、さらに改善・向上すべき点について継続して審議し、取り組む体制を取る。特に、学生数減少の長期的な傾向をいかにしたら食い止められるかについて、今後大学評価委員会のサジェスションにもあるように、日本文学科の取り組みなどを参考に、他の専攻も積極的にカリキュラムの改善・向上に取り組んでいかなければならないと考えている。文学部通信教育課程関連 3 学科（日本文学科・史学科・地理学科）は、各通教主任を通じて、積極的に意見交換を行い、教育内容のさらなる拡充・発展を検討している。

【2016 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

文学部通信教育課程の 2016 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況については、従来からの取り組みに加えて、新たな取り組みも複数試みられている。

たとえば日本文学科は、年に 2 回開催したガイダンスでアンケートを実施し、その結果を全学の通信教育学務委員会などで報告した上で、今後の対策を検討中である。また 2017 年度以降の取り組みとして史学科は、授業中の情報収集を行い、2013 年度からの新カリキュラムの効果を検証することが予定され、地理学科はデータ分析に基づいたカリキュラム改革を検討するなど、それぞれの学科での努力が認められる。

III 自己点検・評価

1 内部質保証

【2017 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

① 質保証に関する活動は適切に行われていますか。

はい いいえ

【2016 年度の質保証に関する活動概要】 ※簡条書きで記入。

・各学科のシートを参照。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、簡条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし（日文・史学・地理）	

【この基準の大学評価】

文学部通信教育課程では、通信教育課程に特化した質保証委員会は置かれていないものの、通学課程の同学部委員会な

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

らびに通信教育部学務委員会、さらには学科会議内で教育質保証の検討が行われており、適切に質保証活動が行われていると評価できる。

なお、文学部の質保証委員会や教学改革委員会には史学科から委員が出席しており、学部と学科の一層の連携が実現されている。またすべての学科で、質保証のために教科担当者、添削担当者などの決定を教授会承認事項とし、卒論一般指導員などを学科で決めることで、質保証に直結する責任の所在を明確にしている。

## 2 教育課程・学習成果

### 【2017年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

##### 2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

###### 【学位授与方針】

文学部通信教育課程では学部の理念・目的の下でそれぞれの学科が明確な学位授与の方針（ディプロマポリシー）を定めている。

###### 【日本文学科】

日本文学科は、「日本の文学・言語・芸能の歴史と現状を専門的に学び」「自らの見解を自らの言葉で的確に発信できる人材を育成する」という教育目標を実現することを目指し、必要となる教育課程を編成する。その課程を修了した者に学士の学位が授与されるためには、

1. 日本の文学・言語・芸能・文化の歴史と現状についての基本的な知識
2. 自らの専門領域の基本文献を正確に把握することのできる読解力
3. 魅力ある研究対象を発見し、自らの力で調査・考究する思考力
4. 研究の成果を的確に伝えられる日本語の表現力

以上のような資質・能力を身につけていることが求められる。

###### 【史学科】

史学科（通信教育課程）における教育は、学生が卒業するまでに以下のような見識・能力を修得していることを目標とする。

1. 国際的な視野と、政治・経済・社会・文化などにわたる幅広い歴史知識を得ることによって、現代社会の問題を見る眼を養い、未来を展望する見識。
2. 史料の批判的考察から体系的理解に至る歴史学の分析方法を習得して思考力・判断力を培い、自主的・自立的に問題を発見・追究・検証する能力。
3. 通信学習による試験、レポート執筆、スクーリングによる対面授業、卒業論文指導等の訓練を通して、自分の意見を論理化・体系化して相手に伝え、かつ相手の意見を理解するコミュニケーション能力。
4. 文化遺産の調査・保存を啓発し、また、次世代の教育に歴史学の成果を生かすことのできる能力。

###### 【地理学科】

上記の理念・目的をもとに、地理学の方法論を学ぶことによって地理学的視点から「地域の特性」を理解する能力を身につけ、対面する「具体的な問題」に対し、自ら率先して取り組み、解決する能力を持った人材を育成することが教育目標である。

1. 「地域」を単位とした分析視覚を養う。
2. 習得した文化・歴史的、社会・経済的、自然・環境的諸問題に関わる分析手法を踏まえて、具体的に調査・研究する能力を身につける。
3. それらの上に、自然環境そのものと、その上に生起する地域問題を具体的に分析する能力を身につける。

地理学科のカリキュラムはこれらの能力を育成するために編成されており、本学科の所定の単位を修得したとき、「学士」の学位が授与される。

①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

##### 2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

###### 【教育課程の編成・実施方針】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

文学部通信教育課程では学部理念・目的の下でそれぞれの学科が明確な教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を定めている。

**【日本文学科】**

日本文学科の教育課程は、他学部・他学科と共通の基礎科目と専門科目によって構成され、とくに日本文学科独自の専門科目においてその専門性を広く把握すると同時に深く追求するため、文学・言語・芸能文化の3コース制を採用する（2013年度より）。

まず文学コースでは、古代から近現代までの歴史的な見通しのなかで日本文学について学び、さらに中国文学・沖縄文学なども視野に入れた上で、特定の時代や特定の領域の文学を専門的に研究することを目指す。次に言語コースでは、古典語の用法から現代日本語の変容までを含む広い領域で日本語について学び、さらに方言・外国語と日本語の関係・理論言語学などの多角的な視点も理解した上で、特定の主題を通じて言語の本質を専門的に考察することを追求する。また芸能文化コースでは、古代から現代までの芸能とそれらを育んできた歴史・宗教・文化について学び、日本の芸能文化の形成と展開を理解した上で、音楽・演劇や特定領域の日本文化に関して専門的に考察することを目指す。

それぞれのコースは必修科目と選択科目の組み合わせによって関係づけられており、学生は2・3年次以降いずれかのコースに籍を置いて学習を進める。4年次にはその研鑽の成果を発揮する卒業論文に取り組む。なお卒業論文は、日本文学科の教育課程における集大成と位置づけられる。

**【史学科】**

史学科（通信教育課程）のカリキュラムは、教育目標の達成をめざして、次のように体系的な構成を取っている。

1. 新入1年生に対して、学習の進め方やレポートの書き方に関する冊子を配付して、大学生としてふさわしい学習に適應できるよう指導する。
2. さらに1年生・2年生には幅広い歴史の勉強が必要であり、日本史・東洋史・西洋史それぞれに各時代別に概説の授業を設ける。
3. 2年生以降、歴史学の専門的教育に入る。専門的なテーマの講義を多数開講するとともに、学生は歴史資料学や演習科目の受講によって、専門的教育指導を受ける。
4. 4年生は教員の指導のもと、一つの研究課題に取り組み、卒業論文を作成する。卒業論文は学生の学業の集大成として位置づけられる。

**【地理学科】**

大学、通信教育学部が掲げる編成方針に加え、地理学科独自の編成として

1. 「概論」関連の科目を通して、大学で学ぶ地理学の基礎を理解し、地理学への興味関心を育成する。
2. 自然地理学（地形、生物・土壌、気候、海洋・陸水など）、人文地理学（経済、文化、都市、農業など）、地誌（日本、世界各地）など多彩な科目群を総合的に学ぶことで地理学の方法論を習得する。
3. 地図関連科目群によって地図や測量の基礎を学ぶとともに、現地研究というフィールドワークを通じて地理学的調査を実践する。
4. 演習を通じて地理学的地域調査の具体例を学び、自らの研究対象の策定とそのまとめとしての卒業論文の作成により地理学士としての集大成を行う。

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
--	--

②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
--	--

**【根拠資料】** ※冊子名称やホームページURL等。

・各学科のシートを参照。

③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	<input checked="" type="checkbox"/> S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B
--	---

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>(～400 字程度まで) ※検証を行う組織 (教授会や各種委員会等) や検証の時期等、検証プロセスを記入。</p> <p>全学の通信教育課程の審議機関である通教学務委員会、大学評価室、文学部教授会、文学部教学改革委員会、文学部質保証委員会、関連三学科それぞれの会議において教育目標・学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性を検証する作業が、年度内において行われる体制となっている。</p> <p>具体的には各学科のシートを参照。</p>	
<p><b>【2016 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地理学科においては通信教育課程の学生数の推移、各科目の受講者数の推移 (過去 5 年間) などの資料を通信教育部からとりよせ、それらの資料に基づいて学科会議でカリキュラムの今後の在り方について議論を行った。改善の具体的な時期に方策については継続審議中である。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017/3/15 地理学科学科会議議事録</li> </ul>	
<p>2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p>	
<p>①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>初年次教育から専門的教育へと順次段階的に知識と理解を深めつつ、自ら問題を発見して、そこから研究課題を設定するとともに、課題について研究するための方法論を学ぶ。その過程において各教員は的確に学生の能力の向上を図り、その集大成としての卒業論文作成の指導に当たっている。文学部の通信教育課程 3 学科すべてが、学生の能力育成のための教育課程・教育内容を適切に提供している。具体的には各学科シートを参照。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページ URL や掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科のシートを参照。</li> </ul>	
<p>②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p>(～600 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修 (個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ (必修・選択等) 含む) への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>文学部通信教育課程 3 学科では、それぞれに教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を年次配列に配慮しつつ、一般性と専門性の積み重ねをはかるべく、適切に開設している。よって、各学科の教育課程は体系的に編成されている。</p>	
<p><b>【2016 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・史学科においては新カリキュラムにより日本文学科科目「日本文芸研究特講・漢文」の履修が可能となり、日本文化史への関心にこたえることができるようになった。</li> <li>・地理学科においてはメディアスクーリングの科目を新たに 4 科目増やし充実させた。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科のシートを参照。</li> </ul>	
<p>2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	
<p>①学生の履修指導を適切に行っていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【履修指導の体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科のシートを参照。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科のシートを参照。</li> </ul>	
<p>②学生の学習指導を適切に行っていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科のシートを参照。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科のシートを参照。</li> </ul>	
<p>③1 年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

<p><b>【履修登録単位数の上限設定】</b> ※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。 1年間に49単位（学期ごと、学年ごとの上限は設定されていない。）</p> <p><b>【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】</b> ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。 ・中学校・高等学校教育職員、司書、司書教諭及び社会教育主事を志望する者は、学部学科の専門教育科目の他にそれぞれ定められた授業科目の単位を修得しなければならない。上記に定める科目は49単位を超えて履修でき、この場合において、1年間に履修できる単位数の上限は、原則として60単位と定めている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・「法政大学通信教育部学則 第4章 教育課程（年間履修単位の上限）第30条、（教職課程及び資格課程）第28条の2」</p>	
④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。 ・各学科のシートを参照。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各学科のシートを参照。</p>	
⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 ・各学科のシートを参照。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各学科のシートを参照。</p>	
2.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p><b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。 ・各学科のシートを参照。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各学科のシートを参照。</p>	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。 事務課から通教主任を介して配布された関係資料を、3学科それぞれが、通信教育全体の基準に則して、学科会議で精査したうえで、単位認定を承認している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各学科のシートを参照。</p>	
2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】</b> ※箇条書きで記入。 ・各学科のシートを参照。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各学科のシートを参照。</p>	
②学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入（取組事例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。</p> <p>学生の学習成果は、最終的には卒業論文の内容によって、判定している。優秀な卒論は学内学会誌への掲載を卒論指導教員が勧め、各学科の教員の審査を経た上で、掲載されている点は、一定の成果をあげたものと言えよう。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各学科のシートを参照。</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きで

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

それぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・各学科のシートを参照。	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※ (1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・各学科のシートを参照。
--------------

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (2.1～2.2)

<p>文学部通信教育課程においては、学部理念・目的のもとに関連各三学科が明確な教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針が定められ、いずれもホームページなどに公表されている。各学科ともその特性に応じて、修得すべき所定の単位数、目標設定および達成条件は明確である。</p> <p>教育目標、学位授与方針、教育課程の編成や実施方針が適切であるか、その検証は通教学務委員会、教授会、文学部教学改革委員会、文学部質保証委員会、関連三学科それぞれの会議において慎重に検証されている。</p> <p>地理学科では学生数の推移や過去5年間の各科目受講者数の推移資料をもとに、カリキュラムの在り方について議論が行われている。その結果どのように具体的な方策がとられるのか、今後の展開に期待したい。</p>
--

②教育課程・教育内容に関すること (2.3)

<p>文学部通信教育課程においては、教育課程・内容はいずれも適切に提供され、またカリキュラムの順次性や体系性は確保されている。しかし学生数の減少などの状況に鑑み、現状維持に努めるだけでなく、各学科とも一層の工夫が求められるだろう。</p> <p>そんな中、史学科においては日本文学科科目「日本文芸研究特講・漢文」の履修を可能とし、地理学科においてはメディアスクーリング科目を新たに4科目増やしており、高く評価できる。</p> <p>2013年度から日本文学科で導入された文学、言語、芸能文化の3つのコース制の効果検証とともに、多様な通教生のニーズを把握し、それに合わせた対応を期待したい。</p>
--

③教育方法に関すること (2.4)

<p>文学部通信教育課程のいずれの学科においても学生の履修指導と学習指導は適切に行われている。</p> <p>履修登録単位数の上限は1年間に49単位と設定されている。ただし教育職員、司書、司書教諭及び社会教育主事を志望する者は、それぞれに定められた授業科目につき49単位を超えて履修することができる。その場合でも1年間に履修できる単位数の上限は原則として60単位と定められており、柔軟な履修を担保しながら、同時に過剰な単位登録を防ぐ配慮がなされている。</p> <p>シラバスの適切な作成や、授業がシラバスに沿って行われているかどうか、これらの点については、通信教育部全体として専任教員が第三者として点検することを定めているが、そのほかにも地理学科ではシラバスチェック委員をおき、あるいはスクーリング科目で学科独自のアンケートを実施するなど、その取組は評価できる。</p>
--

④学習成果・教育改善に関すること (2.5～2.6)

<p>文学部通信教育課程では、テキスト学習・スクーリング授業いずれも成績評価と単位認定の適切性は組織的に確認されている。とくに地理学科では受講生からの成績確認申請を受け付け、学科で議論し、対応している。</p> <p>他大学等における既修得単位の認定には、通信教育学部で設けられている基準に照らし、各学科において厳正かつ公平に実施されている。</p> <p>進級・留級などについては通信教育部事務からのデータに基づき、学科会議など学科内で状況把握がなされている。</p> <p>成績分布は十分に把握できているとはいえない状況が昨年度から続いており、たとえば史学科では年度始めにおいて、成績評価における正規分布が望ましいという認識を教員間で共有するものの、分布状況を確認するなどの具体的な方策は採られていない。各学科とも今一步踏み込んだ対応が期待される。</p> <p>学位授与方針に明示されている学生の学修成果は、主として卒業論文(内容・評価・提出者数)において把握され、適切かつ公平に評価されている。</p>
---

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

### 3 学生の受け入れ

#### 【2017年5月時点の点検・評価】

##### (1) 点検・評価項目における現状

3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	
<p><b>【学生の受け入れ方針】</b>          文学部通信教育課程では学部理念・目的の下でそれぞれの学科が明確な学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）を定めている。</p> <p><b>【日本文学科】</b>          日本文学科は、その目的に基づいた教育目標を達成するため、日本の文学・言語・芸能について関心をもつ者を広く受け入れる。ただし、通信教育課程においては、自宅で日本文学の専門的な学習ができるだけの国語の学力が不可欠である。その適性・能力を見極めるために、書類審査を中心とする適切な入学選考を行う。          また、通信教育課程が情報化の進む21世紀社会に対応し、生涯学習教育の担い手となっていることを考慮し、自宅学習を継続できる意志と主体的に学ぼうとする意欲も重要な選考基準とする。</p> <p><b>【史学科】</b>          史学科（通信教育課程）の入学受入れ方針は、その教育理念・目標に基づき、多様な資質・能力の可能性をもった学生の入学に期待をかけており、そのうえで歴史学的な思考方法の習得を目指す意志のある者を通信教育課程の入学者として認めている。また、編入学・転入学も認めており、さまざまな経路から学生を集めているが、それは学生相互に良い影響を及ぼしており、今後もこの方針を継続する予定である。</p> <p><b>【地理学科】</b>          地理学科はその目的にもとづき教育目標を達成するため、地理学に興味を持つ多様な可能性を持つ学生を受け入れている。そのため入学希望者には、地理学関連の書籍を読み論評する志願書を課している。それを複数の教員で審査し入学選考を行っている。多様な可能性を持つ入学志願者は、その入学経路もまた多様である。多様な可能性を持つ学生を広く受け入れるという方針は今後も継続していく。</p>	
① 求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
3.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	
① 定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。          文学部通信教育課程3学科は、定員の超過・未充足について、入学数および在籍者数が減少傾向にあることを認識・共有しており、カリキュラム改革や広報活動をするなど、各学科それぞれ努力をしている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。          ・各学科のシートを参照。</p>	
3.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
① 学生募集および入学選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。          ・各学科のシートを参照。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。          ・各学科のシートを参照。</p>	

##### (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし〈日文・史学・地理〉	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・各学科のシートを参照。

【この基準の大学評価】

文学部通信教育課程においては、求める学生像ならびに修得しておくべき知識等の内容や水準が受入方針として設定・明示されている。

学生募集・選抜制度・選抜体制は適切であり、また学科会議などで定期的に検証が行われ、たとえば史学科では必要に応じて問題や改善策等について適宜審議がなされている。選抜そのものも学科ごとに厳正・公正に実施されている。

定員の未充足への対応については継続的に広報活動に努め、カリキュラムやスクーリングの充実・拡充をはかるなど、その努力は評価できる。しかし状況の好転は見られないことから、さらなる分析と検討を行い、効率的かつ具体的な取組を新たに工夫することが求められる。

4 教員・教員組織

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。 はい  いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・文学部として、通信教育部を有する日本文学科、史学科、地理学科の3学科を通教関連3学科と総称し、その各学科の通信教育課程主任は、通信教育部が主催する毎月定例の学務委員会の構成員として通信教育部全体に関わる事項を審議し、所属する各学科において、および文学部執行部との連絡・調整にあたることとなっている。さらに、文学部執行部が主催する通教関連学科連絡会議、学科主任会議、さらに拡大教学改革委員会における通学課程との共通議題にいずれも出席し、審議する一員となっており、また所属学科との連絡・調整を担当している。
- ・文学部教授会においては、通教関連議題について、上記3学科の通信教育課程主任の代表1名が通年で、発議・説明・報告等を担当している。代表1名は、1年ごとの担当学科交代制による。さらに、3学科それぞれの発議、説明、報告等については、各通信教育課程主任がこれを担当している。
- ・上記3学科においては、各通信教育課程主任が、通信教育部事務部と所属学科あるいは他学科および学部執行部との連絡・調整を担当している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各学科のシートを参照。

4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部(学科)のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。 はい  いいえ

(～400字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性の観点から教員組織の概要を記入。

文学部通信教育課程では、学位授与方針、カリキュラムを前提とした教員像、教員組織の編成方針を明らかにしている。関連3学科それぞれが通教主任を配置し、通教学務委員会および各学科会議の場で話し合い、教育課程に相応しい教員組織の整備に努めている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「文学部教授会規程」、「文学部教授会内規」、「文学部人事委員会細則」
- ・その他各学科のシートを参照。

2016年度専任教員数一覧

(2016年5月1日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計
日本文	11	1	0	1	13
史	6	2	1	1	10
地理	5	3	0	0	8

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

学部計	22	6	1	2	31
-----	----	---	---	---	----

※学校基本調査の教員数を記載。実際の所属教員数とは一致しない場合あり。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・各学科のシートを参照。	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・各学科のシートを参照。
--------------

【この基準の大学評価】

文学部通信教育課程が有する日本文学科、史学科、地理学科は、それぞれに通信教育学科主任をおき、全学の通信教育部が主催する学務委員会の構成員となり、また学部の通教関連学科連絡会議、学科主任会議、拡大教学改革委員会に出席し、全学、学部、学科間の連絡と調整が円滑に進められている。

役割分担も適切に行われ、責任の所在は明確である。また専任教員と兼任教員が補完し合いながら学科のカリキュラムにふさわしい教員組織が整備されている。

5 学生支援

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部(学科)単位で把握していますか。	はい いいえ
--	--------

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。

・各学科のシートを参照。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・各学科のシートを参照。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし(日文・史学・地理)	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし(日文・史学・地理)
-----------------

【この基準の大学評価】

文学部通信教育課程の卒業、卒業保留、留年者および休・退学者の状況は学科単位で把握され、学科会議の議を経て年度末あるいは毎月の文学部教授会において報告されている。

他、学務委員会等で報告された学生に関する動向やデータなどは、適宜学科会議で報告され、適宜対応がなされている。

IV 2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

※各学科を参照

### 【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

日本文学科ではシラバスに沿った授業を行っているか否か、確認する方法を検討することとし、その結果、授業改善アンケートや在学生アンケートを活用する方法があがっているが、実際にそれらのアンケートを用いるかどうかは未定である。

史学科においては、市ヶ谷教養教育課程における歴史系科目と、史学科における専門科目との連携あるいは体系化が検討され、前者の授業内容は把握されたものの、再編成が進行中であったため作業は中断されている。

地理学科の各課題については話し合いに留まり、あるいは特段の取り組みはなされていないが、「成果」項目の成績分布の実態把握は、卒業論文について確認され、一定の課題解決に至っている。

いずれも引き続き、各学科における検討・改善が望まれる。

### 【大学評価総評】

文学部通信教育課程は日本文学科、史学科、地理学科により構成されており、限られたリソースの中で学科ごとの特徴を活かし、教育の質を維持しながら課程の管理・運営が行なわれている点は高く評価できる。

今後、本課程が直面する課題に向けた具体的な施策が期待される。

また、文学部通信教育課程全体としての組織的な取り組みが見えづらいが、各学科には通信教育課程主任がおかれ、通信教育学務委員会や通教関連学科連絡会議なども組織化されているので、今後とも通教学科間の連携や調整等を密に行うことで学部全体の取り組みを一層明確化し、自己点検・評価シートにもそうした試みが反映されることを期待したい。

## 文学部日本文学科通信教育課程

### I 2012年度認証評価における指摘事項（努力課題）

該当なし

### II 2016年度大学評価委員会の評価結果への対応

#### 【2016年度大学評価結果総評】

文学部通信教育課程における2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況として、通信教育課程全体としての学生の減少傾向に対して、それぞれの学科の特色を生かした通信教育のあり方と、外部発信の方法を検討していることは評価できる。外部発信の方法については、評価されている日本文学科の対応を他の学科も試みることを期待したい。

さらに、大学側からの発信ばかりではなく、学生からの意見を幅広く集めることも、減少傾向を食い止める一助になるものと思われる。通信教育という性質上、難しいところもあると思うが、学生、特に新入生へのアンケートなどを何回か行い、学生の考えている事を今以上に把握することも必要ではないかと思われる。

今後とも、カリキュラムや科目名なども検討し、学生のニーズに合わせた改革を行い、通信教育課程として、いろいろな方策についてより一層の検討が期待される。

#### 【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

通信教育課程全体としての学生減少傾向という状況に対して、日本文学科は広報用リーフレットやホームページを活用することで、学外への発信を継続的に行っている。引き続き、学科会議の場で、通信教育課程に関する議論を重ね、文学・言語・芸能文化の3コースの一層の拡充・発展を目指している。なお、新入生を含めた学生に対して、学習ガイダンスを年2回実施し、その場でアンケートを行い、その結果は、通信教育学務委員会で報告され、日文の学科会議でも報告し、検討している。

### 【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

※文学部通信教育課程全体の対応状況の評価を参照。

## III 自己点検・評価

### 1 内部質保証

#### 【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

1.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証に関する活動は適切に行われていますか。

はい いいえ

【2016年度の質保証に関する活動概要】※簡条書きで記入。

- ・毎年度、学科会議の場で、教科担当者・添削担当者・試験担当者・スクーリング担当者等を決め、最終的に学部教授会の承認を経て、必要な役割分担や責任の所在を明確にしている。
- ・通読判定委員（入学志望理由書を読み入学判定を下す委員）・卒論一般指導教員・学習ガイダンス担当者等は、学科会議の場で決め、教員それぞれの役割分担、責任の所在を明確にしている。
- ・また、自己点検・評価シートの年度末報告を行い、学科として問題点等を共有している。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、簡条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照。

## 2 教育課程・学習成果

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

日本文学科は、「日本の文学・言語・芸能の歴史と現状を専門的に学び」「自らの見解を自らの言葉で的確に発信できる人材を育成する」という教育目標を実現することを目指し、必要となる教育課程を編成する。その課程を修了した者に学士の学位が授与されるためには、

1. 日本の文学・言語・芸能・文化の歴史と現状についての基本的な知識
2. 自らの専門領域の基本文献を正確に把握することのできる読解力
3. 魅力ある研究対象を発見し、自らの力で調査・考究する思考力
4. 研究の成果を的確に伝えられる日本語の表現力

以上のような資質・能力を身につけていることが求められる。

①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

日本文学科の教育課程は、他学部・他学科と共通の基礎科目と専門科目によって構成され、とくに日本文学科独自の専門科目においてその専門性を広く把握すると同時に深く追求するため、文学・言語・芸能文化の3コース制を採用する（2013年度より）。

まず文学コースでは、古代から近現代までの歴史的な見通しのなかで日本文学について学び、さらに中国文学・沖縄文学なども視野に入れた上で、特定の時代や特定の領域の文学を専門的に研究することを目指す。次に言語コースでは、古典語の用法から現代日本語の変容までを含む広い領域で日本語について学び、さらに方言・外国語と日本語の関係・理論言語学などの多角的な視点も理解した上で、特定の主題を通じて言語の本質を専門的に考察することを追求する。また芸能文化コースでは、古代から現代までの芸能とそれらを育んできた歴史・宗教・文化について学び、日本の芸能文化の形成と展開を理解した上で、音楽・演劇や特定領域の日本文化に関して専門的に考察することを目指す。

それぞれのコースは必修科目と選択科目の組み合わせによって関係づけられており、学生は2・3年次以降いずれかのコースに籍を置いて学習を進める。4年次にはその研鑽の成果を発揮する卒業論文に取り組む。なお卒業論文は、日本文学科の教育課程における集大成と位置づけられる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<b>【根拠資料】</b> ※冊子名称やホームページURL等。 ・『2017年度学習のしおり』	
③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。 各年度末に、当該年度の卒業生の履修状況・卒論の達成度を、日文の学科会議などで検討し、教育方針の編成実施方針(カリキュラム・ポリシー)および学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)との整合性を検証している。 そして、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証は、執行部の主導のもと、教授会、教学改革委員会、各学科の学科会議において実施され、そのプロセスは以下のとおりである。【1】教授会：検証実施の決定。→【2】教学改革委員会：検証方法の決定。→【3】学科会議：検証の実施。→【4】教授会：検証結果の承認。なお、検証の時期については固定化されていない。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし。	
2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
(～400字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。 1年次から受講できる科目として「論文作成基礎講座Ⅰ」と「論文作成基礎講座Ⅱ」(この2科目はスクーリング科目)を設置し、レポート執筆作法や文献検索法について、基礎的なレベルから学べるようにし、「自らの専門領域の基本文献を正確に把握できる読解力」「研究の成果を的確に伝えられる日本語の表現力」(ディプロマ・ポリシー)を実習形式で養成できる。文学・言語・芸能文化に関する専門性の高い科目については、時代と分野のバランスを考慮しつつ設置し、周辺領域科目についても「魅力ある研究対象を発見し、自ら研究する能力」(ディプロマ・ポリシー)の一助となるよう設置している。2013年度からの新カリキュラムは学科のカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーに則り、再編成したもので、学生の能力育成に適した教育内容となっている。	
<b>【根拠資料】</b> ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等 ・『2017年度学習のしおり』	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
(～600字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等)含む)への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。 2013年度から文学・言語・芸能文化の3コース制に再編成し、通学課程カリキュラムとの整合性を図りつつ体系的・専門的に学習できるよう整備したカリキュラムを実施している。「日本文芸学概論」「日本語学概論」「日本文芸史Ⅰ」を軸にして、各コースの分野の基礎となる2科目を加えた5科目を必修として、専門教育を受けるための基礎作りとしている。さらに、専門性の高い時代別・分野別の「日本文芸研究特講」16科目を選択必修科目、「中国文芸史」「日本美術史」等、周辺領域の分野を選択科目として、4年次の卒業論文執筆に向けて、必要な知識・読解力・思考力を身につけられるよう考慮した科目が設けられている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・『2017年度学習のしおり』、『2017年度通信学習シラバス・設題総覧』	
2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<b>【履修指導の体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。 ・通信教育部ホームページ・『学習のしおり』・『通信学習シラバス・設題総覧』・『法政通信』を通じて、履修指導を行っている。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>・学科独自の対応としては、日本文学科公式ブログに「新カリキュラム」についてというコーナーを設置して、2013年度から始まった新カリキュラムの意義や履修上の注意点等に関する説明を動画配信している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信教育部ホームページ <a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/</a></li> <li>・『2017年学習のしおり』『2017年度通信学習シラバス・設題総覧』『法政通信』（原則毎月発行）</li> <li>・文学部日本文学科公式サイト <a href="http://nichibun.ws.hosei.ac.jp/wp/">http://nichibun.ws.hosei.ac.jp/wp/</a></li> </ul>	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>学習指導については、『学習のしおり』『通信学習シラバス・設題総覧』『日本文学科のしおり』により行っている。それだけで不十分な点は、「論文作成基礎講座Ⅰ」と「論文作成基礎講座Ⅱ」の2科目をスクーリング科目として開講することで、対応している。対面形式授業のスクーリングは、7～8月と1月中旬～下旬に行う集中形式のもの、春学期と秋学期の夜間時間帯に開講されるもの、それから地方都市で年に2乃至3回開講されるものがある。また、地方在住者や社会人学生の利便のために、インターネット上で受講可能なメディア・スクーリングを開講し、近年その拡充に力を入れている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信教育部ホームページ <a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/</a></li> <li>・『2017年度学習のしおり』</li> </ul>	
③1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【履修登録単位数の上限設定】</b> ※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。</p> <p>1年間に49単位で、学期ごとの上限は設定されていない。</p> <p><b>【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】</b> ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信教育課程全体のシートを参照。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信教育課程全体のシートを参照。</li> </ul>	
④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで通信教育部のシラバスは、スクーリング科目（『法政通信』に掲載される）のみであったが、2013年度から通信科目についても独自のシラバスを作成した。</li> <li>・シラバスは、通信科目の特質に合わせた形式で、「学習の到達目標」「科目の概要」「成績評価基準」「テキスト・参考文献」「学習指導・注意点」が明記され、学科会議等で検証を行っている。</li> <li>・各教員が実際の授業内容とシラバスとをチェックすることに加え、2015年度からは第三者の教員がシラバスチェックを行い、問題点がある場合には、担当教員に伝えることで、改善を図っている。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2014年度にスクーリングの一部の科目について、授業改善アンケートを実施している。</li> <li>・2015年度からは全スクーリング科目について、授業改善アンケートを実施することになった。</li> <li>・授業改善アンケートの回答結果から、シラバスの内容との兼ね合いを検証している。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
2.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信科目のテキスト学習は、添削指導と単位修得試験により、各教員がシラバスに従って、適切に成績評価と単位認定を行っており、専任教員が担当教員と連携して適切性を確認している。</li> </ul>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・スクーリング授業は、出席状況（春・秋スクーリングは二分の一以上、夏・冬スクーリングは三分の二以上の出席がないと単位の認定はなされない決まり）と筆記試験またはレポートの両面から、各教員がシラバスに従って、適切に成績評価と単位認定を行っている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
<p>②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>はい <input type="checkbox"/>いいえ</p>
<p>（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。</p> <p>他大学における既修得単位の認定については、通信教育部は編入学や学士入学も多いということもあり、これまで適切な基準に従って、学科会議・学部教授会による厳正な単位の認定と承認の手続きを行っている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
<p>2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
<p>①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>はい <input type="checkbox"/>いいえ</p>
<p><b>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>・進級などの状況については、事務課からの報告を受け、9月と年度末の学科会議で確認している。</p> <p>・成績分布の実態に関しては、これまで十分に把握できているとは言えない。試験放棄者数については、通信科目やスクーリング科目により、登録方法・学習方法・基準等が異なり、試験放棄の定義づけも、単に登録と受験の差というだけにとどまらない難しい面があるため、現在までのところ、状況の把握は困難となっている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
<p>②学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/>A <input type="checkbox"/>B</p>
<p>（～400字程度まで）※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。</p> <p>学習成果は、最終的には卒業論文の内容（卒論面接の内容も含む）・評価・提出者数によって測定している。日本文学科では、優秀な卒業論文は法政大学国文学会の機関誌『日本文学誌要』に、指導教員の推薦により掲載される。近年では2014年度に通教生の卒業論文をまとめ直したものが、一本掲載されたが、これは卒業論文の全体的なレベルアップの現れと考えられる。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・法政大学国文学会の機関誌『日本文学誌要』（年二回発行）</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<p>・今後は、メディア・スクーリングを一層充実させると共に、法政大学国文学会の機関誌『日本文学誌要』に優秀な卒業論文を一本でも多く、掲載できるよう指導したい。</p>
--

**【この基準の大学評価】**

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照。

3 学生の受け入れ

**【2017年5月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

<p>3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。</p>
----------------------------------

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

**【学生の受け入れ方針】**

日本文学科は、その目的に基づいた教育目標を達成するため、日本の文学・言語・芸能について関心をもつ者を広く受け入れる。ただし、通信教育課程においては、自宅で日本文学の専門的な学習ができるだけの国語の学力が不可欠である。その適性・能力を見極めるために、書類審査を中心とする適切な入学選考を行う。

また、通信教育課程が情報化の進む21世紀社会に対応し、生涯学習教育の担い手となっていることを考慮し、自宅学習を継続できる意志と主体的に学ぼうとする意欲も重要な選考基準とする。

① 求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
---	--

3.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

① 定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
----------------------------	--

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。  
定員の充足のあり方に関しては通信教育課程全体に関わる大きな問題である。日本文学科でも定員の未充足については、認識しており、問題点を明確化し、改革を進め、2013年度から新カリキュラム(文学・言語・芸能文化のコース制・通学課程夜間時間帯授業を通信教育部生へ開放・スクーリングの拡充)を実施し、努力している。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし。

3.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

① 学生募集および入学選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
--	---

(～400字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。  
・学生募集および入学選抜の結果については、学科会議で定期的に検証している。  
・志望理由書の様式(設問や字数等)についても、学科会議で検討している。  
・2013年度から設けた課題図書リストの内容に関しても、随時検討を行っている。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし。

**【この基準の大学評価】**

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照。

4 教員・教員組織

**【2017年5月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

① 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
--	--

**【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】** ※箇条書きで記入。

・通信教育課程全体のシートを参照。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・通信教育部学則
- ・通信教育学務委員会規程

4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性の観点から教員組織の概要を記入。

2013年度から、それ以前の文学・言語の分野を中心にしたカリキュラムに芸能文化の分野を新たに加えたカリキュラムになった。これは在籍教員の研究分野を十分に考慮した上での変更ということもあり、新カリキュラム運営においても相応しい教員組織となっている。さらに、2014年度0.5枠増の人事（文学コース担当）を実現でき、指導分野を拡充させた。そして、文学12名・言語2名・芸能文化2名の専任教員に加え、高い専門性を有する兼任教員の協力を得ることで、適切な体制でもって教育にあたっている。

- ・その他は、通信教育課程全体のシートを参照。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・『2017年度学習のしおり』、『2017年度通信学習シラバス・設題総覧』
- ・その他は、通信教育課程全体のシートを参照。

2016年度専任教員数一覧

(2016年5月1日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計
日本文	11	1	0	1	13

※学校基本調査の教員数を記載。実際の所属教員数とは一致しない場合あり。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし。
--------

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照。

5 学生支援

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類等】※箇条書きで記入。

- ・卒業・卒業保留・留年者および休・退学者については、事務課からの報告を受け、学科会議の議を経て、最終的には教授会で報告し、承認されている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・文学部教授会資料

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きで

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

それぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし。
--------

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照。
-----------------------

IV 2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準	教育課程・教育内容
現状の課題・今後の対応等	2013年度に行ったカリキュラムの再編成に問題点がないか、見直しを行う。
年度末 報告	教授会執行部による点検・評価
	学科会議で再編成に問題点がないか検討しているが、現在のところ、見直しを行う必要は特にない。
評価基準	教育方法
現状の課題・今後の対応等	シラバスに従った授業を行っているか否かを確認する方法を検討する。
年度末 報告	教授会執行部による点検・評価
	学生による授業改善アンケートや在学生アンケートを活用することで確認する方法を検討している。
評価基準	成果
現状の課題・今後の対応等	2016年度から、成績分布の状況を把握するべく、事務課の協力を得つつ、改善する。
年度末 報告	教授会執行部による点検・評価
	事務課の協力(資料提供)を得つつ、成績分布の状況を把握し、改善するための検討を行っている。

【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

※文学部通信教育課程全体の取り組み状況の評価を参照。
----------------------------

【大学評価総評】

※文学部通信教育課程全体の大学評価総評を参照。
-------------------------

文学部史学科通信教育課程

I 2012年度認証評価における指摘事項(努力課題)

該当なし
------

II 2016年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2016年度大学評価結果総評】

文学部通信教育課程における2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況として、通信教育課程全体としての学生の減少傾向に対して、それぞれの学科の特色を生かした通信教育のあり方と、外部発信の方法を検討していることは評価できる。外部発信の方法については、評価されている日本文学科の対応を他の学科も試みることを期待したい。

さらに、大学側からの発信ばかりではなく、学生からの意見を幅広く集めることも、減少傾向を食い止める一助になるものと思われる。通信教育という性質上、難しいところもあると思うが、学生、特に新入生へのアンケートなどを何回か行い、学生の考えている事を今以上に把握することも必要ではないかと思われる。

今後とも、カリキュラムや科目名なども検討し、学生のニーズに合わせた改革を行い、通信教育課程として、いろいろな方策についてより一層の検討が期待される。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】(～400字程度まで)

・史学科独自の広報用リーフレットやホームページを有してはいない。しかし、入学説明会における教員による講演や模
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

擬授業を通じた史学科の魅力のアピールと参加者とのコミュニケーション、通信教育部全体の広報媒体を通して生涯学習の意義、在宅あるいは学内での自習の利便性のアピール、さらに卒業生のメッセージのアピールなどの施策を取ってきた。

- ・授業中のパースン・トゥ・パースンの対応を活用することで学生の考えていることを把握していくこととしたい。
- ・2013年度以降の新カリキュラムの効果を検証し、改善点を見つけていくこととしたい。
- ・毎月定例の学科会議において、通信教育部全体の学生数の長期減少傾向に関する情報を共有し、その対策について審議することとしている。

### 【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

※文学部通信教育課程全体の対応状況の評価を参照。

## III 自己点検・評価

### 1 内部質保証

#### 【2017年5月時点の点検・評価】

##### (1) 点検・評価項目における現状

##### 1.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証に関する活動は適切に行われていますか。

はい  いいえ

#### 【2016年度の質保証に関する活動概要】 ※箇条書きで記入。

- ・文学部全体の規程により、学科内に内部質保証委員を置き、文学部質保証委員会と連携しつつ、問題があれば学科会議で審議して、改善策を同委員会や文学部教学改革委員会に諮り、最終的には教授会に提案して承認を得るシステムとなっている。
- ・学科内では、学科会議を定期的に開催しているほか、2011年度からは教育課程や教育内容等に特化して話し合う特別学科会議を年2回開催することとしている。
- ・文学部質保証委員会に史学科からは委員1名が出席し、文学部教学改革委員会には学科主任を含む委員2名が出席している。これらを通じて学部全体と学科の連携が確保されている。

##### (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

### 【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照。

## 2 教育課程・学習成果

#### 【2017年5月時点の点検・評価】

##### (1) 点検・評価項目における現状

##### 2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

#### 【学位授与方針】

史学科（通信教育課程）における教育は、学生が卒業するまでに以下のような見識・能力を修得していることを目標とする。

1. 国際的な視野と、政治・経済・社会・文化などにわたる幅広い歴史知識を得ることによって、現代社会の問題を見る眼を養い、未来を展望する見識。
2. 史料の批判的考察から体系的理解に至る歴史学の分析方法を習得して思考力・判断力を培い、自主的・自立的に問題を発見・追究・検証する能力。
3. 通信学習による試験、レポート執筆、スクーリングによる対面授業、卒業論文指導等の訓練を通して、自分の意見を論理化・体系化して相手に伝え、かつ相手の意見を理解するコミュニケーション能力。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

4. 文化遺産の調査・保存を啓発し、また、次世代の教育に歴史学の成果を生かすことのできる能力。	
①学部(学科)として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件)を明示した学位授与方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	
<b>【教育課程の編成・実施方針】</b> 史学科(通信教育課程)のカリキュラムは、教育目標の達成をめざして、次のように体系的な構成を取っている。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新入1年生に対して、学習の進め方やレポートの書き方に関する冊子を配付して、大学生としてふさわしい学習に適應できるよう指導する。</li> <li>2. さらに1年生・2年生には幅広い歴史の勉学が必要であり、日本史・東洋史・西洋史それぞれに各時代別に概説の授業を設ける。</li> <li>3. 2年生以降、歴史学の専門的教育に入る。専門的なテーマの講義を多数開講するとともに、学生は歴史資料学や演習科目の受講によって、専門的教育指導を受ける。</li> <li>4. 4年生は教員の指導のもと、一つの研究課題に取り組み、卒業論文を作成する。卒業論文は学生の学業の集大成として位置づけられる。</li> </ol>	
①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<b>【根拠資料】</b> ※冊子名称やホームページURL等。 ・ <a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/history/">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/history/</a>	
③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証については、特別学科会議、文学部質保証委員会、文学部教授会、通教学務委員会、大学評価室が連携して毎年度定期的に行っている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 特になし	
2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
(～400字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。 ・ ディプロマ・ポリシーをふまえたカリキュラム編成と履修方式を示し、またそれに対応する教員組織を備え、適切な教育課程および教育内容を提供している。具体的には1 - 2年時に必修科目として「日本史概説」「史学概論」「西洋史概説」「東洋史概説」を配置している。これは、専門科目に先んじてもしくは並行して広く歴史学にアプローチできることを意図するものである。 ・ 教育課程・教育内容の適否および問題解決や改善策等について、必要があれば、毎月定例の学科会議において審議することとしている。	
<b>【根拠資料】</b> ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等 ・ 文学部史学科 <a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/history/">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/history/</a> ・ 『学習のしおり』 <a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/03/d64a198cbd359529de4706120c4c64ff.pdf">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/03/d64a198cbd359529de4706120c4c64ff.pdf</a>	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
(～600字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等)含む)への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

- ・シラバスにおいて、教養科目（一般教育科目・外国語科目・保健体育科目、以上、通信教育部全体として共通であり、1・2年次生において履修する）と専門科目とを示し、専門科目では1年次において履修可能な科目と2年次以降に履修可能な科目とが明記されており、基礎的な科目と専門性の高い科目との区別を明瞭に示している。
  - ・専門科目においては、概説・概論系科目、講義系科目、特講系科目、演習系科目、実習系科目、卒業論文と、専門性に応じた段階的科目設定にするとともに、選択・選択必修・必修と3つに分類し、順次性とともに体系的が明瞭に読み取れるようにしている。
  - ・専門性の高い科目として演習をスクーリングで履修する場合には、基礎的な科目など一定の単位修得を要件とすることを示している。
  - ・最終的な卒業要件として卒業論文を定めており、科目学習の総仕上げとして位置付けている。
- 【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。
- ・ <http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/history/>

2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。 S  A B

- 【履修指導の体制および方法】** ※箇条書きで記入。
- ・年度始めに、事務から学生に対して冊子『学習のしおり』が配布され、それによって履修方法が理解できるようにしている。さらに、シラバスには各科目の学習の到達目標・科目の概要・成績評価基準・テキスト名およびその詳細・学習指導の注意点等を示している。
  - ・通信教育部全体の行事として年間二回行われる学習ガイダンスにおいて、専任教員が直接学生に対し履修の手引きを行い、また学生の疑問・質問に答えている。
  - ・学生の履修上の疑問に対応する事務担当者からの連絡があれば、これを通信教育課程主任が学科会議において報告する、あるいは審議を発議することとなっている。
  - ・履修指導に関連する問題などを、毎月定例の学科会議において審議することとしている。

- 【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。
- ・『学習のしおり』  
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/03/d64a198cbd359529de4706120c4c64ff.pdf>
  - ・シラバス  
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/03/1f6de457fca6385f3923>
  - ・単位修得について  
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/credits-examination/>
  - ・卒業要件について  
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/requirements>
  - ・レポートについて  
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/about-report/>
  - ・スクーリング学習  
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/schooling/>
  - ・単位修得試験  
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/credits-examination-location/>
  - ・卒業論文について  
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/graduation-thesis/>

②学生の学習指導を適切に行っていますか。 S  A B

- (～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。
- ・通信教育部全体の行事として年間二回行われる学習ガイダンスにおいて、教員が直接学生に対し学習の手引きを行い、疑問・質問に答えている。
  - ・卒業論文については年間三回指導の機会を設け、二回の文書指導と一回の面接指導を行っている。
  - ・学習質疑という制度を有し、学習上の問題や疑問に関する文書での質問に対し、文書での回答を、通信教育部の事務を介して、行っている。
  - ・対面授業であるスクーリングや大学構内における自習に際して、学生の求めに応じて、適宜面接指導を行うこととなっている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位修得状況が不良と判断され、在学年数が一定期間を経過した学生に対しては、履修計画書の提出指示などの改善指導を行っている。なお、学習上の不正行為など学生の本分に悖る行為に対する罰則規定は、学則あるいは不正行為処分基準において定められ、『学習のしおり』、『法政通信』において明示され、周知されている。</li> <li>・オフィス・アワーを設け、学生の相談に応じている。</li> <li>・通信教育部が主催する夏期・冬期両スクーリング期間中に行われる「通教生のつどい」という行事において、適宜、教員が学生の相談に応じている。</li> <li>・学習指導に関連する問題等を、毎月定例の学科会議において審議することとしている。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ガイダンス <a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/</a></li> <li>・『学習のしおり』 <a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/03/d64a198cbd359529de4706120c4c64ff.pdf">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/03/d64a198cbd359529de4706120c4c64ff.pdf</a></li> </ul>	
③1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【履修登録単位数の上限設定】</b> ※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「履修登録単位数の上限設定」→1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。 1年間に49単位（学期ごと、学年ごとの上限は設定されていない）</li> </ul> <p><b>【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】</b> ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校・高等学校教育職員、司書、司書教諭及び社会教育主事を志望する者は、学部学科の専門教育科目の他にそれぞれ定められた授業科目の単位を修得しなければならない。 上記に定める科目は49単位を超えて履修でき、この場合において、1年間に履修できる単位数の上限は、原則として60単位とする。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法政大学通信教育部学則 第4章 教育課程（年間履修単位の上限）第30条（教職課程及び資格課程）第28条の2</li> </ul>	
④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信教育部全体として、担当教員によって作成されたシラバスのすべてを、公開前に、学科内の専任教員が第三者チェックとして、全学統一形式をふまえたものとなっているかどうか、点検することを定めている。これまで通信教育課程主任がこれを担当して来ている。</li> <li>・第三者チェックにおいて問題があった場合には、チェック担当者とは担当教員との間を通信教育部の事務が媒介して、修正作業が行われることとしている。</li> <li>・シラバス作成の適否および第三者チェックの結果について、あるいはシラバスチェック体制の改善策について、毎月定例の学科会議において、報告あるいは審議することとしている。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信教育学務委員会規程</li> </ul>	
⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科内の各専任教員は、割り当てられている複数の科目の科目担当として、それらの科目の実際の指導教員と適宜連絡を取り、毎月定例の学科会議において報告や問題提起を行うこととしており、またそれを受けて審議することとしている。</li> <li>・通信教育部全体として、在学生アンケートを行っている。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在学生アンケート <a href="https://ceportal.hosei.ac.jp/campusweb/top.do">https://ceportal.hosei.ac.jp/campusweb/top.do</a> <a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/about-weblearning/">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/about-weblearning/</a></li> </ul>	
2.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p><b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学共通の成績評価基準が学生および教員に周知されている。それに基づいて、各学生の GPA および単位修得状況を把握することができるようにしている。</li> <li>・学科内の各専任教員は、割り当てられている複数の科目の科目担当として、それらの科目の実際の指導教員と適宜連絡を取り、毎月定例の学科会議において報告や問題提起を行うこととしており、またそれに基づいて審議することとしている。</li> <li>・通信教育課程主任は、通信教育部事務部と連絡を取り、問題が発生すれば、直ちに学科会議に諮ることとしている。</li> <li>・卒業に際しては、該当学生全員の単位修得および成績の状況を示す資料を通信教育部事務部より受け取り、それを専任教員全員が点検することとしている</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし（学科会議資料）</li> </ul>	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>他大学における既修得単位数の認定については、通信教育部事務部から通信教育課程主任を介して配布された関係資料を、学科会議において、通信教育部の規定および学科のカリキュラムに照らして、点検・確認することとしている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・編入学生の単位認定</li> </ul> <p><a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/admission/accreditations/">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/admission/accreditations/</a>  <a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/admission/outline/regular.html#cont02">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/admission/outline/regular.html#cont02</a></p>	
2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全科目におけるレポート、スクーリング、さらに単位修得試験の成績分布について、学科として定期的に把握することはない。しかし、必要があれば、通信教育部事務部から関係資料を受け取り、それによって点検し把握できるようにしている。また、年度始めにおいて、成績評価における正規分布が望ましいという認識を教員間で共有するようにしている。</li> <li>・進級については、年度末の卒業判定の際に、通信教育部事務部より通信教育課程主任を介して配布された資料によって、その状況を点検・確認し、把握できるようにしている。</li> <li>・必修科目である卒業論文については、一般指導で学術研究論文作成への心構えと注意点を理解させた上で、第一次指導（文書）、第二次指導（口頭）、第三次指導（文書）を通じて研究史、参考文献の探究、渉猟の重要性を指導している。これを受けて提出される卒業論文は文書審査、口頭試問により評価されるが、内容とレベルにおいて不十分な場合は、不合格とし再提出を求める場合がある。</li> <li>・卒業生の成績については、学科会議および文学部教授会における卒業資格審査の際に、通信教育部事務部より通信教育課程主任を介して配布された資料によって点検・確認し、把握することとしている。</li> <li>・成績不良あるいは履修不良により一定年数を超えて在学する学生については、通信教育部事務部より配布された資料によって学科会議においてこれを把握し、当該学生に学習計画書を提出させるという措置を講じている</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信教育学則</li> <li>・通信教育学務委員会規程</li> </ul>	
②学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の学習の状況および成績（レポートや単位修得試験の成績評価を含む）については、割り当てられた複数の科目の担当として各専任教員が、適宜、実際の指導を担当する教員と連絡をとり、学科会議において報告、問題提起等を行うこととしている。</li> <li>・卒業論文については、卒業論文の面接試問が終わったのち、その状況・結果について、学会会議で報告することとしている。</li> <li>・卒業資格者と卒業者の人数把握については、通信教育部事務部より通信教育課程主任を介して配布される資料を、学科会議において点検、確認することとなっている。</li> </ul>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・退学、除籍については、通信教育部事務局より通信教育課程主任を介して配布された資料を、学科会議において点検・確認し、さらに文学部教授会において報告することとしている。その上で、学習奨励策などについて、毎月定例の学科会議において審議することとしている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・文学部教授会資料

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・提出卒業論文は、従来手書きを原則とし、場合により指導教員の指示に従うこととしてきた。既にかなりの程度パソコン使用が学生間でも一般化した状況を踏まえ、提出卒業論文のワープロ使用を可とするかを検討したいと考えている。

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照。

3 学生の受け入れ

【2017 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	
【学生の受け入れ方針】 史学科（通信教育課程）の入学受入れ方針は、その教育理念・目標に基づき、多様な資質・能力の可能性をもった学生の入学に期待をかけており、そのうえで歴史的な思考方法の習得を目指す意志のある者を通信教育課程の入学者として認めている。また、編入学・転入学も認めており、さまざまな経路から学生を集めているが、それは学生相互に良い影響を及ぼしており、今後もこの方針を継続する予定である。	
①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
3.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	
①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
(～200 字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。 ・入学定員の未充足状況について、また中途退学・除籍の問題については、社会人学生や生涯学習志向の中高年の学生が多いという通信教育部の特性から考えると、経済状況など社会のさまざまな影響が考えられ、学科としての努力にも限界があるという見方もある。しかし、教職員一体となって広報活動に努めている。たとえば、入学説明会における教員による講演や模擬授業を通じた魅力のアピール、広報媒体を通じた生涯学習の意義、在宅あるいは学内での自習の利便性のアピール、週末や連休を利用した連続三日間のスクーリングにおいて一科目・一学期分の単位修得ができるという魅力のアピール、さらに卒業生の大学に対するメッセージのアピールなどの施策を取っている。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・『法政通信』	
3.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学生募集および入学選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
(～400 字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- ・年度内に七回行われる通読判定と称される入学志願書の審査による合否判定作業は、専任教員が毎回持ち回りでこれを行い、そのつど判定結果・講評を学科会議において行うこととしている。その上で、問題や改善策等についても適宜審議することとしている。
- ・学務委員会における通信教育部全体の関係資料を学科において閲覧し、情報共有するようにしている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・通信教育学務委員会資料

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし
-------

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照。

4 教員・教員組織

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。  はい  いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】 ※箇条書きで記入。

- ・通信教育部全体を参照。それを踏まえた上で史学科における学科会議は、全専任教員による通学課程・通信教育課程・大学院人文科学研究科史学専攻に関する議題を審議するとともに、史学科としての決定を行う機関でもあり、原則として、毎月2回開催される。そして、通信教育課程に関する議題の発議・説明は、通信教育課程主任が行い、上記の通り、その決定などは通信教育課程主任を通して、各上位機関との連絡・調整が行われる。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・通信教育部学則、通信教育学務委員会規程

4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部(学科)のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。  はい  いいえ

(～400字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性の観点から教員組織の概要を記入。

- ・日本史・東洋史・西洋史の3分野において原始・古代から近現代史まで、また地域史あるいは地域間交流、さらに政治・経済・文化といった領域など、分野・時代・地域・領域を幅広くカバーするように努めている。学生の多様な学びの志向を想定し、専任教員のみでは対応困難なものにおいては、大学および学部、学科において定められた人事上の手続きを経て、適切な兼任(非常勤)講師を採用して対応するようにし、カリキュラムと教員組織との整合性に努めている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・『学習のしおり』

<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/03/d64a198cbd359529de4706120c4c64ff.pdf>

- ・シラバス

<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/03/1f6de457fca6385f3923>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計
史	6	2	1	1	10

※学校基本調査の教員数を記載。実際の所属教員数とは一致しない場合あり。

## (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

## (3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし
-------

## 【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照。

## 5 学生支援

### 【2017 年 5 月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。  はい  いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。

・卒業・卒業保留・留年者・休・退学者の状況については、通信教育部事務部より通信教育課程主任を介して配布された資料によって学科会議において点検、確認の作業と承認の決定を行うこととしている。その後年度末あるいは毎月の文学部教授会において、点検、確認、承認の報告を行うこととしている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・文学部教授会資料

## (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

## (3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし
-------

## 【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照。

## IV 2016 年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準	教育課程・教育内容
------	-----------

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

現状の課題・今後の対応等	教養課程における歴史系科目と史学科における専門科目との連携あるいは体系化が必要か否か、あるいは可能か否かについて、検討する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価
	市ヶ谷教養教育課程（ILAC）における歴史系科目担当者の専門領域およびその授業内容を学科として把握した。しかし、市ヶ谷教養教育課程において、科目を基礎的なものと応用的なものに再編成する作業が進行中であったため、その成り行きを見守りつつ、対応を考えることとした。

**【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】**

※文学部通信教育課程全体の取り組み状況の評価を参照。

**【大学評価総評】**

※文学部通信教育課程全体の大学評価総評を参照。

**文学部地理学科通信教育課程**

**I 2012年度認証評価における指摘事項（努力課題）**

該当なし

**II 2016年度 大学評価委員会の評価結果への対応**

**【2016年度大学評価結果総評】**

文学部通信教育課程における2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況として、通信教育課程全体としての学生の減少傾向に対して、それぞれの学科の特色を生かした通信教育のあり方と、外部発信の方法を検討していることは評価できる。外部発信の方法については、評価されている日本文学科の対応を他の学科も試みることを期待したい。

さらに、大学側からの発信ばかりではなく、学生からの意見を幅広く集めることも、減少傾向を食い止める一助になるものと思われる。通信教育という性質上、難しいところもあると思うが、学生、特に新入生へのアンケートなどを何回か行い、学生の考えている事を今以上に把握することも必要ではないかと思われる。

今後とも、カリキュラムや科目名なども検討し、学生のニーズに合わせた改革を行い、通信教育課程として、いろいろな方策についてより一層の検討が期待される。

**【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）**

学生数減少に対応するため、全国で唯一の地理学科の通信教育課程という特徴を前面に出して学外への発信に努めているが（ウェブ等での発信は行っていない）、2016年度に特に新たな方策は講じていない。今後の検討課題として残された。魅力あるカリキュラムの充実に関しては、学科会議において、これまでの学生数の変遷や、各科目の受講者数の推移に関するデータを分析するなど、検討は行っている。2017年度にはそのような分析に基づいたカリキュラム改訂を目指して検討中である。また2016年度以降、メディアスクーリング科目を増やして、スクーリングに参加しにくい遠方の学生もメディアを通じて教員の生の声を聞いて学習できるカリキュラムが次第に充実しつつある。

**【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】**

※文学部通信教育課程全体の対応状況の評価を参照。

**III 自己点検・評価**

**1 内部質保証**

**【2017年5月時点の点検・評価】**

**(1) 点検・評価項目における現状**

1.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証に関する活動は適切に行われていますか。

はい いいえ

**【2016年度の質保証に関する活動概要】** ※箇条書きで記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- ・文学部全体の規程により、学科内に内部質保証委員を置き、文学部質保証委員会と連携しつつ、問題があれば学科会議で審議して、改善策を同委員会や文学部教学改革委員会に諮り、最終的には教授会に提案して承認を得るシステムとなっている。
- ・学科内では、学科会議を定期的で開催し、教科担当者、添削担当者、スクーリング担当者、通読判定者、卒論一般指導担当者など学科会議において合意し、役割分担等の責任の所在を明確にすることで内部質保証に供している。定期的で開催されている質保証委員会での議論は、学科会議の際に報告されている。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照。

2 教育課程・学習成果

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	
<p><b>【学位授与方針】</b></p> <p>上記の理念・目的をもとに、地理学の方法論を学ぶことによって地理学的視点から「地域の特性」を理解する能力を身につけ、対面する「具体的な問題」に対し、自ら率先して取り組み、解決する能力を持った人材を育成することが教育目標である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「地域」を単位とした分析視覚を養う。</li> <li>2. 習得した文化・歴史的、社会・経済的、自然・環境的諸問題に関わる分析手法を踏まえて、具体的に調査・研究する能力を身につける。</li> <li>3. それらの上に、自然環境そのものと、その上に生起する地域問題を具体的に分析する能力を身につける。 地理学科のカリキュラムはこれらの能力を育成するために編成されており、本学科の所定の単位を修得したとき、「学士」の学位が授与される。</li> </ol>	
①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	
<p><b>【教育課程の編成・実施方針】</b></p> <p>大学、通信教育学部が掲げる編成方針に加え、地理学科独自の編成として</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「概論」関連の科目を通して、大学で学ぶ地理学の基礎を理解し、地理学への興味関心を育成する。</li> <li>2. 自然地理学（地形、生物・土壌、気候、海洋・陸水など）、人文地理学（経済、文化、都市、農業など）、地誌（日本、世界各地）など多彩な科目群を総合的に学ぶことで地理学の方法論を習得する。</li> <li>3. 地図関連科目群によって地図や測量の基礎を学ぶとともに、現地研究というフィールドワークを通じて地理学的調査を実践する。</li> <li>4. 演習を通じて地理学的地域調査の具体例を学び、自らの研究対象の策定とそのまとめとしての卒業論文の作成により地理学士としての集大成を行う。</li> </ol>	
①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【根拠資料】</b> ※冊子名称やホームページURL等。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『2017年度地理学科のしおり』、通信教育部HPで公開している。</li> <li>・<a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/</a></li> </ul>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S A B
<p>(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。          通教学務委員会、文学部教授会などと連携しながら、学科会議において通信教育の特徴を生かした教育のあり方、具体的な教育方法、カリキュラム編成等について随時検証を行っている。</p>	
<p><b>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。          通信教育課程の学生数の推移、各科目の受講者数の推移(過去5年間)などの資料を通信教育部からとりよせ、それらの資料に基づいて学科会議でカリキュラムの今後の在り方について議論を行った。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。          ・2017/3/15 学科会議議事録</p>	
<p>2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p>	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S A B
<p>(～400字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p>	
<p>地理学科のカリキュラム体系は通学課程を基本に設計されており、学生の多様性という通信教育課程独特の性質に応じ、生涯学習を主たる目的とする通信教育課程に適した基本を身に付けるカリキュラムを構築している。生涯学習を主たる目的とする学生にも、また測量士補資格、中学校社会科及び高等学校地理歴史科・同公民科の教員免許等の資格取得をめざす学生にも配慮した科目配置となっている。なお2013年度からはカリキュラム改革を実施し、科目の学年配当変更、必修選択の設定等を行い、新たな学生ニーズに対応する教育内容を提供している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等          ・通信教育課程のみのカリキュラムツリーやカリキュラムマップは公開していないが、カリキュラムの概要は『2017年度地理学科のしおり』や通信教育課程のウェブサイトで公開している。          ・<a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/</a></p>	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S A B
<p>(～600字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等)含む)への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p>	
<p>教養科目と専門科目をシラバスで示し、1年次で履修可能な専門科目、2年次以降履修可能な専門科目とを明示している。専門科目においては自然地理学、人文地理学、地誌学の科目群を、必修・必修選択・選択の区分の中で配置している。スクーリングによる授業科目も適切に配置している。必修科目の「自然地理学概論(1)」、「人文地理学概論(1)」、「地理調査法(自然編)」「地理調査法(人文編)」は通学課程の「地理学概論」、「地理実習」に対応するものであり、1年次から配置している。それらを踏まえて各授業科目によって各分野の知識を幅広く習得し、それらを現場で体得するフィールドワーク、すなわち「現地研究」などを通して現場感覚を養う。それらを踏まえて、最終的に卒業論文に結実するよう各科目を配置している。</p>	
<p><b>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。          ・メディアスクーリングの科目を新たに4科目増やし充実させた。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。          ・『2017年度地理学科のしおり』や通信教育課程のウェブサイトで公開している。          ・<a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/</a></p>	
<p>2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S A B
<p><b>【履修指導の体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。          ・履修指導、科目の概要については、通信教育部ホームページ、通信教育部の『2017年度学習のしおり』、『2017年度通信学習シラバス・設題総覧』、『2017年度法政通信』等の配布物で明示し、履修指導を行っている。          ・スクーリングの各科目概要や到達目標、成績評価基準については『2017年度法政通信』『2017年度スクーリングシラバス』で明示している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>通信教育部ホームページ <a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/</a></li> <li>『2017年度学習のしおり』、『2017年度通信学習シラバス・設題総覧』、『2017年度スクーリングシラバス』</li> <li>『2017年度法政通信』</li> </ul>	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>通信学習における疑問点は「学習質疑」制度によって対応している。2013年度からは通信教育部全体で年2回実施する「学習ガイダンス」に通教主任が出席し、疑問・質問に答えることを通して、新入学者・編入学者に対する学習の動機づけを行うようになった。またスクーリングは市ヶ谷キャンパスにおいて春・夏・秋・冬各期に実施し、地方スクーリングも実施している。対面授業によるスクーリング時においては、受講生からの直接の質問にも対応しており、その効果は大きい。「現地研究」においては2泊3日の行程で現場を歩くため、参加学生との質疑応答の機会が多い。さらに卒業論文作成においては一般指導、1次指導(文書指導)、2次指導(個別面談指導)、3次指導(文書指導)を実施し、段階をおった指導を実施している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通信教育部ホームページ <a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/</a></li> </ul>	
③1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【履修登録単位数の上限設定】 ※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通信教育課程全体のシートを参照</li> </ul> <p>【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】 ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通信教育課程全体のシートを参照</li> </ul>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通信教育課程全体のシートを参照</li> </ul>	
④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入(取組例: 執行部(〇〇委員会)による全シラバスチェック等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学科内の教員の中でシラバスチェック委員を置き、チェックの結果により各教員に修正を求めている。</li> </ul>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>	
⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入(取組例: 後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シラバスと講義内容との乖離は想定されていないが、スクーリング科目については、履修者に対して学科独自アンケートを実施して確認を行っている。また全学で行われているウェブによるアンケート結果も担当者が確認し、チェックしている。</li> </ul>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>	
2.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文の成績評価は、地理学の教員全員で確認し、単位認定の適切性を確認している。</li> <li>卒業に際しては、学生の単位修得、成績状況に関する資料を事務部から受け、地理学科の教員全員がそれを点検・確認している。</li> <li>通信教育課程では成績確認申請は制度化されていないが、受講生から個別に申し出があった場合は、通教主任が窓口となって学科で議論し、対応している。</li> </ul>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部(学科)内基準を設けて実施していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>他大学における既修得単位の認定は、入学選考に当たる通信教育課程主任ならびに通読判定委員により、通信教育全体の基準に則して精査され、その上で学科会議において承認されている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・特になし	
2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい いいえ
<b>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。 ・進級・留級等のデータについては通信教育部事務からの報告を受けて学科内で確認している。 ・成績分布の実態は把握できていない。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
（～400 字程度まで）※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。 学習の最終成果としての卒業論文作成にあたり、内容の一層の充実をはかるため文書・面接指導を実施している。2012 年度からは新たに文書による 3 次指導を全員に課し、指導の充実をはかった。提出された卒業論文に対しては、主担当教員の評価を基本としながらも、公平を期すため複数の教員による面接試問を経て、地理学科の教員全員の合議によって最終的に成績評価されている。その結果は、最終的には教授会に諮られる。提出された卒業論文の質を高め、優秀論文が数多く提出されることこそが学習成果の測定に該当するものであり、卒業論文の成績は、地理学科の全教員によって確認されている。また優秀論文執筆学生には、例年 3 月に開催される全国地理学専攻学生「卒業論文発表大会」（日本地理教育学会主催）において、法政大学地理学科通信教育課程学生代表として発表するよう指導している。レベルの高い卒業論文である旨、他大学の教員から評価されることも多い。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

## (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・資料にもとづき、学科会議でカリキュラムの今後の在り方の議論を行った。	2. 2③
・メディアスクーリングの科目数が 4 科目増加した。	2. 3②

## (3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※（1）～（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な学生数の減少傾向に対しては、全国唯一の通信教育制を持つ地理学科としてのアピールを通信教育部の公式ウェブサイトやパンフレット等を通じてさらに強く行っていく予定である。</li> <li>・カリキュラムの充実については、過去の受講者数やアンケート等を参考にして、より学生のニーズに対応した改定を行っていく予定である。</li> </ul>
---

## 【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照。

## 3 学生の受け入れ

### 【2017 年 5 月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。
<b>【学生の受け入れ方針】</b> 地理学科はその目的にもとづき教育目標を達成するため、地理学に興味を持つ多様な可能性を持つ学生を受け入れている。そのため入学希望者には、地理学関連の書籍を読み論評する志願書を課している。それを複数の教員で審査し入学選考を行っている。多様な可能性を持つ入学志願者は、その入学経路もまた多様である。多様な可能性を持つ学生を広く受け入れるという方針は今後も継続していく。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
3.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	
①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>(～200 字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。</p> <p>新規入学者数、在籍者数は長期にわたって減少傾向にある。地理学科単独での対応には限界があるが、通信教育部全体の対策とともに学科としての対応も検討していく。現行カリキュラムの問題点を再検討してカリキュラムの一層の充実をはかり、それを学外へ発信するよう今後とも試みていく。通信制教育の実施大学において、地理学科は本学以外に存在しないことを再発信する方法もまた、事務部とともに再検討する必要がある。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
3.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400 字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学志望書を通信教育主任と通読判定委員が通読し、能力と意欲があるか否か判定している。</li> <li>・通読判定委員が判定結果を学科会議で報告し、全教員で判定結果について確認・検証している</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	

## (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

## (3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な学生数の減少傾向に対しては、全国唯一の通信教育制を持つ地理学科としてのアピールを通信教育部の公式ウェブサイトやパンフレット等を通じてさらに強く行っていく予定である。</li> <li>・カリキュラムの充実については、過去の受講者数やアンケート等を参考にして、より学生のニーズに対応した改定を行っていく予定である。</li> </ul>
---

## 【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照。

## 4 教員・教員組織

### 【2017 年 5 月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	
①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地理学科内においては、通教主任が通信教育課程の教育に関わる発議、説明、報告等を行っている。</li> <li>・その他は通信教育課程全体のシートを参照。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「通信教育部学則」、「通信教育学務委員会規程」</li> </ul>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・地理学科役割分担表						
4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。						
①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。					はい	いいえ
<p>(～400字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性の観点から教員組織の概要を記入。          総合科目としての地理学の領域を担当できるよう、自然地理学、人文地理学それぞれの専門分野のバランスに留意した教員組織になっており、また優秀な人材を内外から兼任・兼任教員として確保している。したがってカリキュラムに則った教員組織が整備されている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。          ・「地理学科人事に関する内規」「地理学科人事に関する申し合わせ」          ・『2017年度学習のしおり』、『2017年度通信学習シラバス・設題総覧』          ・通信教育課程全体のシートを参照</p>						
2016年度専任教員数一覧 (2016年5月1日現在)						
学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計	
地理	5	3	0	0	8	
※学校基本調査の教員数を記載。実際の所属教員数とは一致しない場合あり。						

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・2015年度末に通信教育担当の専任教員が転出したため、兼任教員に依頼せざるを得なかった科目があったが、2016年度に新たな採用人事を行い、専任教員の補充を行った。	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度に専任教員数の定員を充足できたため、2017年度からはより充実した授業を提供できると考えている。</li> <li>・2017年度中に人事に関する内規および申し合わせにおいて、採用における基準を明確化する。</li> </ul>
--

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照。
-----------------------

5 学生支援

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。						
①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。					はい	いいえ
<p><b>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。          ・学務委員会等で報告された学生に関する動向や、データなどは、適宜学科会議で報告され、確認している。          ・卒業生、卒業保留者、退学者については、事務による集計を受けて、学科として把握し、教授会に報告している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。          ・文学部教授会議事録</p>						

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・特になし	
-------	--

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし
-------

【この基準の大学評価】

※文学部通信教育課程全体の大学評価を参照。
-----------------------

IV 2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準		教育課程・教育内容
現状の課題・今後の対応等		学生の新たなニーズに対応するためのカリキュラムの見直しを行う。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	カリキュラムの具体的な見直しは行われなかったが、通信科目の再編成に関して話し合った。
評価基準		教育方法
現状の課題・今後の対応等		シラバスに則った授業が実施されているか否か確認する他の方法を検討する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	スクリーニング時にシラバスに関して受講者と話す機会があったが、シラバスチェック委員による確認以外には、他の方法の具体的な検討には至らなかった。
評価基準		成果
現状の課題・今後の対応等		成績分布の実態を把握する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	各教科の成績分布は教科担当者が行っているが、学科として把握すべきは学習の最終的な成果を示す卒業論文の成績分布である。卒論の成績は全教員に把握され、成績分布も確認した。
評価基準		学生の受け入れ
現状の課題・今後の対応等		通信制教育の実施大学において、地理学科は本学のみであることを再発信する方法を検討する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	地理学科が設置されている通信制大学は本学のみであることを、学習ガイダンス等で引き続き発信したが、他の場での発信方法の検討は課題として残された。学科単独で対応するのは本質的に困難な課題である。

【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

※文学部通信教育課程全体の取り組み状況の評価を参照。
----------------------------

【大学評価総評】

※文学部通信教育課程全体の大学評価総評を参照。
-------------------------

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。